

関係者インタビュー

アスカ株式会社

参与 開発本部 武満 知彦氏、主査 出口 寛氏、主任 樋口 励氏
ロボットシステム事業部 営業部課長 加藤 雅弘氏

2013年2月26日 インタビュー:中部オフィス 大石 誠

WPALでの
歩行練習



「WPAL」で常識を変える、歩行練習の未来を変える ～「もう一度歩きたい」を実現するアスカの技術～



加藤 雅弘氏

当社は、昭和28年に設立以来、自動車部品を中心に生産してきました。近年ではその技術を活かし、産業用ロボットシステムの開発も事業の柱に加えています。この産業用ロボットの技術を応用して開発したのが、下肢麻痺の方の歩行補助ロボット「WPAL(ウーパル)」です。今回の中部経済産業局の事業には、この「WPAL」や今後の新製品の開発・販売に役立つと考え参加を決めました。また、「WPAL」は、HOSPEXを経て、平成25年1月30日に発売を開始しました。

◆「WPAL」ではじめての医療福祉分野へ

「WPAL」は、当社が初めて医療福祉分野に携わるきっかけとなった製品です。「下肢装具を改良して、下肢麻痺の方の歩行をもっとスムーズにしたい。お手伝

いをしていただけませんか」という藤田保健衛生大学からの要請を受けたことに始まります。

それまでの下肢装具は、股関節は動くものの膝関節や足関節が動かないため、動きがぎこちなく、上肢にも負担がかかるものでした。これを解消するため、全ての関節にモーターを付けてパワーアシストしてみてもどうか、ということになり、ロボット技術を持つ当社が協力することになったのです。こうして平成17年から本格的な開発が始まりました。

◆次も「仮想カタログ・メソッド」で ーゴールからの発想で見えてくるもの
研修を受け始めるとすぐに、頭の中がスッキリと整理されていくのを感じました。体系的でわかりやすいうえ、実績に裏打ちされた内容には、非常に説得力がありました。仮想カタログのメソッドを使うと、すべきことが明確になります。技術者や営業マンの意思統一もしやすくなり、スピーディーに事が進むようになりました。

今後は、新商品の開発をスタートするときからこのメソッドを使っていこうと思っています。



樋口 励氏

また、これまで多くの展示会に参加してきましたが、HOSPEXでは初めて販売を目的とした展示を行いました。営業を巻き込んだ取組みも初めてでしたが、特に若手は装具を装着してのデモや説明を頑張ってくれました。デモを見た販売店さんから、「うちで出させてください」と言っていたのがとても新鮮でした。また、「どういう切り口で説明すれば、よりわかっていたいただけるかな」と考え抜くことで、お客様目線を持つことの大切さを実感しました。

◆「歩きたい」という希望を支えつづける

私たちに、大きな夢があります。まずは、患者さんの「もう一度歩きたい」という希望を支え、実現すること。脊髄損傷した人は立ち上がれない、という常識を変えていきたいのです。そのために、病院での歩行練習にWPALなどのロボットを幅広く導入していただけるよう、努力していきます。

そして、患者さんの「もう一度歩きたい」を超えて、「もっと自由に動きたい」という気持ちに応えること。病院施設だけでなく、個人の方にも使っていただけるようになれば、近所への散歩など、もっと自由に動くことも可能になるのではないのでしょうか。そのために、コストダウンに取り組み、入手しやすい価格にすることにも力を入れていきます。

まず患者さんに喜んでいただく。そしてゆくゆくは、福祉の中のひとつのブランドとしてアスカを広く知っていただき、世界の方々により快適な生活をお届けしていきたいと考えています。



出口 寛氏



武満 知彦氏

■ 本事業に関するご紹介はこちらから >> http://www.jmac.co.jp/special/health_care/

【お問合せ】株式会社日本能率協会コンサルティング

TEL.03-3434-0982 mail:healthcare_jmac@jmac.co.jp

URL:<http://www.jmac.co.jp>